

女流義太夫 ファン育て

大阪 8年ぶり定期公演復活

明治時代に一大ブームを巻き起こし、アイドル的な人気を集めだが、戦後は低迷している「女流義太夫」の担い手やファンを育てる活動が広がっている。義太夫節発祥の地・大阪では4月、8年ぶりに定期演奏会が復活。義太夫協会(東京)も後継者養成の研修制度を新設し、人材発掘に力を入れている。(倉岡明菜)

後継養成へ 研修制度も

「待つてました！」。

月22日、大阪市中央区の御

靈神社で開かれた定期演奏

会「瑠璃の会」の初公演。

袴姿の女性太夫と三昧線

弾きが登場すると、客席か

ら掛け声がかかった。約1

50席はあつという間に埋

まった。

女流義太夫は江戸初期に上方で発祥したとされる。義太夫節の創始者・竹本義太夫が大坂・道頓堀に竹本座を開くより前に、六字南

8年ぶりの定期演奏会で義太夫節を披露する竹本土佐恵さん(左)と鶴沢駒清さん(右)。(4月22日、大阪市中央区)=泉祥平撮影



無右衛門」という女性太夫が京都で語ったとの記録が残る。しかし、幕府は女性の芸能者を認めず、禁止した。

明治になると一世を風靡し、「追っかけ」集団も結成された。作家・志賀直哉は熱烈なファンで寄席に通った。現在、東京の義太夫協会に48人が所属するが、大

阪の演者は10人に満たないという。大阪での定期演奏会も09年を最後に途絶えていた。

一方、義太夫協会は昨年4月、プロを目指す人を対象に2年間、無料で稽古をする特別研修制度を新設した。

女流義太夫研究家・水野悠子さんの話「後継者、指導者不足は深刻。次代につなぐためにも、大阪で演劇に触れてもらう取り組みは大切だ」

明治時代には、人気スターの錦絵も刷られた。描かれているのは初代竹本綾之助(義太夫協会提供)